

定本
村野四郎全詩集

筑摩書房

定本村野四郎全詩集

著者村野四郎

昭和四十三年十二月十五日初版発行

昭和五十五年八月二十五日定本版発行

発行者布川角左衛門

印刷所株式会社明和印刷東京都板橋区前野町三ノ四七

製本所株式会社鈴木製本所東京都文京区関口一ノ一六ノ一

発行所株式会社筑摩書房東京都千代田区神田小川町二ノ八

電話東京二九一局七六五一番振替口座東京六一四一二三

定価壱万貳千円

限定版五百部ノ内

二〇八 番

目

次

『蒼白な紀行』以後

春・	六
わが老齡・	七
冬の旅・	九
夜の馬・	一〇
老年・	二
鎮魂・	三
蓬萊・	三
或る日に・	五
山下清・	六
熱・	七
秋の日・	六
霧・	元
N氏の一日・	三〇
晩夏・	三
落第・	三
実存的な時・	四
春と詩人・	六

晩年・	七
夜霧のなかで・	六
物語・	三〇
九月のパストラル・	三
鳥・	三
秋・	四
秋雨蕭々・	三
蕭条・	三
新しい年・	六
靈魂の朝・	元
影・	四〇
冬のスキヤンダル・	四一
正月閑居・	四三
春・	四四
die ewige Wiederkehr・	四五
六月のかなしみ・	四六

蒼白な紀行

日常の犬・	五
青い木の下で・	五
秋・	五
郵便局界隈・	五
同席・	五
湖畔・	五
蒼白な紀行・	五
見ばえのしない犬・	五
晩秋・	五
冬・	五
雨季のうた・	五

洪水以後・	六
摩周湖遠望・	六
春・	六
青春・	六
心臓のあるトルソ・	六
城・	六
盲目の春・	六
地下水道・	六
秋の日・	六
冬の河・	六

亡羊記

詩人の彫像 序詩・	六
堀のむこう・	六
空地の群落・	六

永遠的な黄昏・	六
夜の運河・	六
青春の魚・	六

亡羊記・拾遺

秋の夜の中で	三三	朝鯛	一四
小さい冬バラに	三六	登高行	一四
十一月のうた	三九	ダイヤル一九	一八
青い夜に	一四〇	二月のゆめ	一四〇
冬になる村	一四一	小さい春	一五〇
早春	一四二	大きな青い石	一五三
青いバラ	一四三	部屋	一五三
新年	一四四	詩人の夜	一五四

抽象の城

無神論	一五八	さんたんたる鮫鱈	一七〇
コスモスの夜	一五九	牛	一六六
抽象の城	一六〇	夜の主題	一六九
自殺考	一六一	訪墓記	一七一
岸辺の疑惑	一六四	夜の内臓	一七三
崖の上の抒情	一六六	歳末夜景	一七四

実在の岸辺

人類の発達・	一五	埋れた六月・	一六
すてられたブロンズ・	一七	後記・	一八
過失・	一八		
亡命・	一四	経験・	一九
魚における虚無・	一六	ながれる虹・	二〇
消息・	一七	天路歷程・	二二
花を持った人・	一八	現代の冬・	二三
歌・	一九	肉体・	二五
乞食・	二〇	顔について・	二六
古い村・	二一	黒い歌・	二七
秋の犬・	二二	写生について・	二八
わが降誕節 (一)・	二三	枯草のなかで・	三〇
わが降誕節 (二)・	二四	夏草・	三一
ある時代の午前・	二五	あざみ・	三三
苦い論理・	二六	道・	三三
小さい庇の下で・	二七	詩法について・	三五
形成のない眺望・	二八	夜の歌・	三六

実在の岸边・拾遺

春の漂流・	三七
午後・	三八
肖像・	三〇
有限の海・	三二
秋の章 (一)	三三
秋の章 (二)	三四
鎮魂歌・	三五

暗い降誕祭・	三八
魚・	三〇
蕭々・	三一
秋の夜の声・	三三
凍る庭・	三五
後記・	三六

豫感

春の室・	二四〇
詩法・	二四二
読書の秋・	二四三

歌舞伎うら・	二四四
美術展にて・	二四五
多摩墓地にて・	二四六

小序・	二五
冬深む・	二五三
幻の田園・	二五三
展開・	二五五

明るい秋・	二五六
夜の中から・	二五七
詩法・	二五九
前庭・	二六〇

豫感・拾遺

夏野・	二六	新年・	二七
歌・	二六	夜あらし・	二六
昏れる田園・	二五	春の祭・	二七
青い石・	二五	暮春抒情・	二七
歌・	二六	蓼麻の都・	二七
空の家族・	二六	たたかいの終り・	二七

故園の堇

小序・	二六〇	梅・	二九五
梅の影と・	二六三	青年の火・	二九七
海の声・	二六四	冬の菊・	二九八
武蔵野の春・	二六六	恢復期 (一)・	二九八
深冬の頃・	二六九	恢復期 (二)・	三〇一
早春・	二九一	熱き田園・	三〇二
故園の堇・	二九三	秋・	三〇三
戦士の墓の前で・	二九四	故園の春・	三〇四

珊瑚の鞭

花びらをつけた神	三〇五	帰還	三四
幽霊	三〇七	少女の手紙	三六
瞼の街	三〇九	かがやく秋	三七
飛翔	三二	春の尺牘	三九
古い夜道	三三		
序	三三	山岳にて (一)	三四
道	三四	山岳にて (二)	三四
丘の上	三五	新緑	三四
陸軍病院にて	三七	九月の歌	三四
前線への手紙	三九	初秋抒情	四五
車中白衣	三三	秋の日	四六
荆棘の家	三三	勉強の果	四七
故園	三五	月	四八
昏れる田園	三七	雲のアルバム	四九
花々の中で	三八	日の終り	五一
春の時間	三九	相聞歌	五一
暮春抒情	四〇	懐える世界	五一

抒情飛行

砂の中の本	三五	登攀	三五
隙間	三五	少年	三五
秋の門	三七	夏すぎて	三七
ピアノ三重奏	三六	冬の傾斜	三六
鴉の巣	三六	秋の椅子	三六
秋の影	三六	白い山	三七
主人	三六	故園悲調 (一)	三七
影	三六	故園悲調 (二)	三七
四月の花	三六	故園悲調 (三)	三七
夏の午後	三六	故園悲調 (四)	三七
小序	三七	血	三七
白の円錐 八篇		若い雲	三九
白の円錐	三六	息子	三九
碑銘	三六	抒情飛行 十六篇	
愛国詩	三三	抒情飛行	三三
故園の春	三四	父	三四
火の桜	三五	晚い夏	三五

市民広場・	三九六	丘の上の歌・	四三
若い尖兵・	三九八	夜の対象 其一・	四四
訪墓記・	四〇〇	夜の対象 其二・	四四
武蔵野 其一・	四〇一	近代修身・	四五
武蔵野 其二・	四〇三	歌・	四七
武蔵野 其三・	四〇四	あなたは花と共にひらき・	四六
歌・	四〇五	週末歌・	四〇
大学生・	四〇五	徳ある田園 十一篇	
島嶼の秋・	四〇七	徳ある田園 其一・	四三
慄える世界・	四〇九	徳ある田園 其二・	四三
枯れた果樹園・	四一〇	徳ある田園 其三・	四三
夜の中・	四一二	焦げる田園・	四四
未来・	四一三	園丁はもう歌わない・	四五
夜の縁・	四一三	植物・	四六
溶ける山・	四一五	新しい遠景・	四七
近代修身 十一篇		降誕節・	四六
あの歌をおきなさい・	四一七	飛行思想・	四〇
傾く夜の中で・	四一八	凍る降誕祭・	四一
農夫・	四一九	夜の円・	四三
日暮の人・	四二三	春の祭 二十六篇	

抒情飛行・拾遺

春の祭 其一	四四	田園歌 其二	四七
春の祭 其二	四五	田園歌 其三	四八
春の祭 其三	四六	夏至	四九
春の祭 其四	四七	秋	五〇
春の祭 其五	四八	秋の恋	六一
暮春抒情 其一	四九	声	六二
暮春抒情 其二	五〇	冬の終り	六三
春の火	五一	冬の抒情	六四
蜀葵	五二	予感	六五
涼	五三	消息	六六
楳田の春 其一	五四	遠いこえ	六七
楳田の春 其二	五五	室内	六八
田園歌 其一	五六		
サラリーマン週間	四六	近代修身 三	四七
二つに折られたカット	四七	近代修身 四	四八
近代修身 一	四七	別荘家族	四九
近代修身 二	四七		

目

反転現象	五二	生活の中	五〇
私	五三	余白	五二
午	五三	散歩	五三
覚める	五四	つまらない時間	五三
冬居	五五	Ball Room に	五四
手	五六	天の糧	五五
鮮明なものに	五六	九月のパストラル	五六
夜	五七	アルバム	五七
欧州船出帆	五八	消息	五九
異・序（川路柳虹）	五三	航海	五九
序に代えるもの	五五	気よわ	五九
I		秋へ秋へと	五四
朝	五六	迷装	五四
冬になる風	五七	我身のなげき	五一
旗	五七	礼拝堂	五四
批評家に	五八	日曜日	五四
獣皮の手袋	五八	艶書	五四